淀川水系流域委員会　第７回ダムＷＧ　結果概要

開催日時：2004 年 10 月 18 日（月）15：00～17：00
場　　所：カラスマプラザ 21　８階 大会議室
参加者数：ＷＧメンバー委員 17 名、 ＷＧメンバー外委員 3 名
河川管理者（指定席）30 名、一般傍聴者（マスコミ含む）127 名

※本稿は、議事の概要を簡略にまとめたものです。詳細な議事内容については、後日公開される議事録をご参照下さい。

１．決定事項
２．審議の概要
　①河川管理者からの説明と意見交換
　　○資料 1-1「琵琶湖水位と瀬田川洗堰について」に関する意見交換
　　○資料 1-2「木津川上流上野地区の治水対策案について」に関する意見交換
　②拡大学習会の報告と今後のダムＷＧのスケジュール
　　○拡大学習会での主な検討事項
　　○ダムＷＧの検討スケジュール
３．一般傍聴者からの意見聴取

１．決定事項

・ダムＷＧ作業部会のメンバーが決定した。メンバーは以下の通り。
今本委員（ダムＷＧリーダー）、桝屋委員（川上ダムＳＷＧリーダー）、川上委員（川上ダムＳＷＧサブリーダー）、水山委員（３ダムＳＷＧリーダー）、荻野委員（３ダムＳＷＧサブリーダー）、田中哲夫委員（余野川ダムＳＷＧリーダー）、本多委員（余野川ダムＳＷＧリーダー）、三田村委員、西野委員、寺川委員。

２．審議の概要

①河川管理者からの説明と意見交換

○資料 1-1「琵琶湖水位と瀬田川洗堰について」に関する意見交換

河川管理者より前回のＷＧで委員から頂いた質問に対する回答として、資料 1-1「琵琶湖水位と瀬田川洗堰について」を用いて説明が為された。

○資料 1-2「木津川上流上野地区の治水対策案について」に関する意見交換

河川管理者より資料 1-2「木津川上流上野地区の治水対策案について」を用いて説明が為された後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り。

・過去のＷＧで、岩倉峡の現在の流下能力や直轄区間以外の河道掘削の効果について、

調査と回答を要求したが、いまだに示されていない。次回、ダムの効果について説明したいとのことだが、その前に、まずはこれらの調査と回答をお願いする（ダムWGリーダー）

・検討の前提となった条件がよく分からない。なぜ洪水毎に被害額の差がこれほど大きいのか。なぜ氾濫量＝被害額となるのか。今日の説明資料には、こういったことを検討するための計算条件やバックデータ（下流の条件、破堤の条件、河道掘削の効果等）が記載されていない。次回はきちんと揃えてほしい（ダムWGリーダー）。

・10 洪水の氾濫量をトータルして比較検討しているが、この方法が適切なのかどうか疑問を感じる。

←各対策の効果をどのように評価するかについては、議論があると思う。今回の検討では、10 洪水の氾濫量をトータルしてみた。実際に事業を採択していく際にはB／Cまで含めた検討が必要だと考えている（河川管理者）。

・引き伸ばした後の 10 洪水の島ヶ原地点のピーク流量はどのようになっているのか。引き伸ばしたことによって、既往最大のピーク流量よりも大幅に増えているのか。

←降雨量が 1.1 倍になったからといって、流量も 1.1 倍になるとは限らない。ただ、今は手元にデータを持ち合わせていないので、後日お示ししたい（河川管理者）。

・複合案の検討では、投資効率の高い３つの案（上野遊水地掘削、新設遊水地、新設遊水地掘削）を組み合わせた複合案を検討するのか。それとも、これら以外の対策も組み合わせた検討もするのか。

←複合案の検討では、投資効率の高い３つの案による複合案を検討したいと考えている（河川管理者）。

・次回のWGで、ダムの効果の比較検討をしたいとのことだが、その際には、ダムの追加予算がどれくらい必要になるのかも含めた検討をお願いしたい。

・それぞれの対策のコストはどのような手法で算出しているのか。原単位があってそれを積み上げているのか。それとも全国の事例を参考にしているのか。

←河川管理者が工事を発注する際の一般的なコストを積み上げて算出している（河川管理者）。

・溜め池活用案を検討する際には、大阪狭山市の狭山池の事業が参考になるのではないか。

←狭山池は歴史的な築造物で、その保存のために多大な予算を使っていると思われる。上野地区の溜め池の検討では、溜め池の嵩上げに必要なコストを積み上げて計算した（河川管理者）。

・いずれの案も「地権者との交渉期間」は不明となっているが、漁業権等まで考慮すると、河川整備計画が対象としている 20～30 年では、交渉はまとまらない。

②拡大学習会の報告と今後のダムWGのスケジュール

今本ダムWGリーダーより、午前中に開催された拡大学習会での検討内容について報告が為された後、ダムWGの検討スケジュールについて説明が為された。

○拡大学習会での主な検討事項

1)想定降雨について

実績の降雨とするのか、それとも、実績の総降雨量の降雨パターンを取り入れた仮想降雨を既往最大規模の洪水するのか。検討会では結論が出ず、先送りすることとなった。

2)堤防強化と河道流量

堤防強化は、ダムの是非にかかわらず、絶対条件として整備を進めるよう求める。しかし、堤防強化を前提とした検討は危険なので、河道流量は「天端－余裕高」で想定することとなった。

3)ダムの是非

建設見直しを含めた検討を行っている。委員の中では、河川整備計画の目標をダム以外の方法で達成できるなら、それでいくべきだという合意はとれている。

○ダムWGの検討スケジュール

・ダムWG報告書の作成手順として、まずは作業部会を組織して、「たたき台」を作成する。作業部会のメンバーは、ダムWGリーダー（今本委員）、サブWGリーダーとサブリーダー（桝屋委員、川上委員、水山委員、荻野委員、田中（哲）委員、本多委員）、三田村委員、西野委員、寺川委員の 10 名。

・作業部会でたたき台を作成し、第 35 回委員会（11/16）および各地域部会に提出し、各委員からご意見を募集する。ダムに対する最終的な評価は、1 月 22 日の委員会で報告する予定となっている。

３．一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者４名より発言があった。主な意見は以下の通り。

・地質調査報告書を解析した結果、川上ダムサイト付近には 300m に及ぶ活断層があることがわかった。河川管理者はこの地域の地質調査を避けているようにも思える。ダムWGでは、活断層に注目して検討し、水資源機構に詳細な説明を要求して頂きたい。

←活断層調査と地質調査は、非常に重要であり、長い時間をかけて調査してきている。その結果、ダムサイトおよびダムサイト周辺には活断層はないと判断した。実証的証拠も含めて、ＨＰ等でしっかりと説明したい（河川管理者）。

・河川管理者が既往最大規模の洪水として採用している「引き伸ばし降雨」は、非常に機械的であり、非科学的だ。しかも、これまで木津川上流の住民には 5313 型洪水で説明してきたにも関わらず、なぜ今さら変更する必要があるのか。時間雨量を一定率の割り増した降雨が、内陸性の盆地に降るとは全く考えられない。

・上野遊水地の関係者である私たちは、近所の住民同士でさまざまな議論をした結果、川上ダムと上野遊水地で対応していくということで集団移転までしてきた。319㎜という降雨は実際に降った雨で、今後もいつどういう形で降るかは分からない。先日の台風でも避難勧告の一歩手前の状況までいった。とても心配だ。ダムＷＧでは、地元住民の不安やこれまでの経緯を含めた検討をお願いしたい。

・私は上野遊水地の実現に向けて努力してきた。今回、河川管理者から治水対策案として「上野遊水地掘削案」が出ているが、地権者は絶対にこれを承諾しない。上野地区は昔から洪水の被害に苦しんできた。これを解消するため岩倉峡の開削を求めてきたが、下流の大阪への影響を考えて、開削ではなく、川上ダムと上野遊水地で対応していくことになり、５年かかって地元の方々を説得して、上野遊水地をつくってきた。上野遊水地のために先祖代々の土地も提供した。いまさら川上ダムをつくらないということになれば、地元の方々にどのように説明すればいいのか。地元住民の気持ちも考えた上で、検討をして欲しい。

　←現在の上野遊水地は、10 年に一度の確率で発生する洪水（1/10 確率）に対応するかたちで計画されている。これを 1/5 確率にすると言えば、地元住民の方々のおしかりを受けるだろう。しかし、決してそうではなく、1/20 確率、1/30 確率にしたいと思っている（ダムＷＧリーダー）。

・新規水需要はゼロとして検討を進めるとのことだが、年明け頃に水需要の精査確認が出てきた場合にはどのように対応するのか。また、姉川・高時川川づくり会議で丹生ダムを含めた６つの治水対策案が滋賀県から示されたが、この内容について、委員会では説明されていない。ダムＷＧでは、滋賀県案をどのように扱っていくのか。

　←水需要の精査確認結果が出てくれば、検討をしたい。河川管理者には、時間的な余裕を持って出して頂きたい。また、滋賀県の治水対策案についても検討するつもりだ。必要があれば、滋賀県に説明を求めることもあるだろうと考えている（ダムＷＧリーダー）